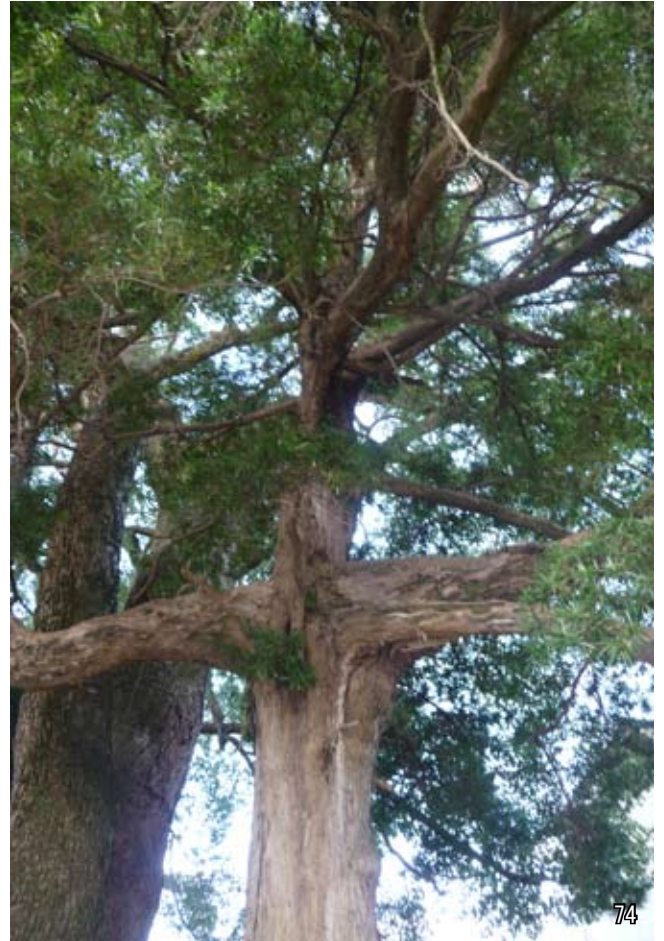




73 春日神社のまき府

樹 高：14m 幹周り：2.1m
 樹 齢：250年 指定年：昭和49年3月29日
 所在地：和泉市春木町992-1
 交 通：泉北高速「和泉中央」駅から、南海バス「春木川・若樫」方面行き「神社前」下車、西へ徒歩400m

上端が雷に打たれ、幹の半分は病気になったため、治療を受けています。それでも地面から顔を出している根は長く伸び、しっかりと葉をつけ、元気に育っています。秋にこのマキの木の実を男の子に食べさせると無病息災になるとの信仰があるそうです。



74 岡中鎮守社のまき府

樹 高：19.5m 幹周り：2.4m
 樹 齢：300年 指定年：平成2年3月2日
 所在地：泉南市大字岡中618
 交 通：JR 阪和線「和泉鳥取」駅から、北東へ徒歩1.4km

この鎮守社の広い境内林に存在した樹木が大正期の飢饉の時に売却され、人々を救いました。その時でもこのマキとクスノキの巨樹は地元の人たちが守り抜いたそうです。それほどまでに、これらの樹は心のよりどころだったのでしょ。樹形は非常に面白く、まっすぐに伸びた幹から直角に伸びた枝は、まるで両腕を伸ばして人々を抱きかかえているようです。

マキ

コウヤマキはコウヤマキ科コウヤマキ属の樹木で、南東北から九州にかけて分布する1科1属1種の日本固有種です。ホンマキとも呼ばれ、総称としてのマキに含むマキ科のイヌマキなどは近縁種です。

幹は縦方向の凹凸が生じ、樹皮は赤褐色から灰褐色で縦に裂ける性質を持っています。葉は細長い葉が2枚合着する珍しい形で先端がややくぼんでおり、枝先に密生して丸い樹冠を形成します。早春に開花し、実は細長い松ぼっくりのような形をしています。

比較的手入れが容易で樹形が美しいことから庭木と

して人気があります。

材は緻密で水に強く、高級な建築材になります。名の由来となった高野山では手厚く保護されてきて、紀州藩でも藩の用材と金剛峯寺の普請以外には伐採を禁じていました。また、高野山では若い枝先が仏花として用いられます。樹皮も水に強いことから和船や建築の漏水防止材として使われました。

古代には棺材として珍重され、弥生時代の組合せ式木棺や前期古墳の丸木を削り抜いた長大な割竹形木棺などコウヤマキ製のものがたくさん発見されています。



75 枚方田中邸のむく府

樹 高：33m 幹周り：5m
 樹 齢：600～700年 指定年：昭和45年2月20日
 所在地：枚方市枚方上之町
 交 通：京阪本線「枚方市」駅下車、南西へ徒歩700m

田中家は代々、河内鋳物師で、鋳物工場の建築は市内王仁公園に移築されて、府指定文化財に指定されています。ざらざらとした葉は鋳物製品の研磨に使われており、田中家の生業と深い関わりがあります。丘の斜面頂部に高くそびえ、府内におけるこの種の巨樹の完全な形を示しているとともに、金属加工のシンボルとして存在します。



76 旭神社のむく府

樹 高：18m 幹周り：1.9m
 樹 齢：300年 指定年：昭和56年6月1日
 所在地：大阪市平野区加美正覚寺1丁目17-30
 交 通：JR 大和路線「平野」駅下車、東へ徒歩700m

旭神社にある二本のムクの樹は、一本が大阪府指定天然記念物で、もう一本が大阪市の保存樹に指定されています。どちらも春になると、やわらかい陽光のもと、輝くような新緑で身をまといます。秋から冬にかけては大量の葉が落ち、幹と枝だけになって、じっと寒さに耐えているかのようです。

ムク

ムクノキ（ムク）はニレ科ムクノキ属の落葉高木で、漢字では椋と書きます。成長が速いため巨樹になりやすい木です。東アジア一带に広く分布しており、日本では関東以西の山地や平地で普通に見られます。成長するに従って灰褐色の樹皮には縦に亀裂が入り、老木になるとはがれ落ちることもあります。

葉は卵形で縁はギザギザしており、表面に細かい毛が密生していて紙ヤスリのような手触りです。初夏に薄緑色の小さな花を咲かせ、秋には直径1cmほどの

実をつけます。黒紫色に熟した実はとても甘く、ムクドリなどが好んで食べます。材はかたくしなやかですが耐久性は劣ります。

ざらざらした葉は珪酸を多く含んでおり、トクサと同様昔は木製品や金属製品の磨きに使っていました。そのため木地師や鋳物師の工房近くにはわざわざムクノキを植えたものだとわれています。



77

77 行姿邸のむく府

樹 高：15m 幹周り：2.5m
 樹 齢：300年 指定年：昭和56年6月1日
 所在地：貝塚市森
 交 通：水間鉄道「森」駅下車、西へ徒歩200m

森駅近くの大型店舗の駐車場の上から眺めると、天に向かって豊かな枝ぶりを伸ばす樹全体を見ることができます。住宅街の中であって行姿邸の庭は広く、大樹が生い茂り、自然の森があるかのようです。



78

78 拂殿座神社のむく府

樹 高：25m 幹周り：4.4m
 樹 齢：250年 指定年：昭和48年3月30日
 所在地：岬町淡輪4401
 交 通：南海本線「淡輪」駅下車、西へ徒歩800m

かつてはご神木として守られていたと考えられるこのムクは、現在小さな祠とともにこの一本だけが狭い敷地の中に残っています。地元の人たちによって清掃、草刈などが行われており、大切に保護されています。倒壊防止のための支柱も立てられました。





79

79 道明寺のもくげんじ^{どうみやうじ} 府

樹 高：6.6m 幹周り：0.76m

樹 齢：不明 指定年：昭和45年2月20日

所在地：藤井寺道明寺2丁目627

交 通：近鉄南大阪線「道明寺」駅下車、西へ徒歩500m

道明寺天満宮の境内の一角の中に、施錠され、大切に保護されています。案内してくれた禰宜の方が、「春には黄色の花が咲きとてもきれいですよ。この樹を守るために最近炭を根元に入れてあります。木が元気になりますよ。」と説明してくれました。秋にはたわわに実ったほおずきのような袋から黒い種が顔を出します。昔はこれで数珠をつくったのだということです。この数珠で念仏を唱えると極楽往生できるという話が謡曲「道明寺」に謡われています。

モクゲンジ

モクゲンジはムクロジ科モクゲンジ属の落葉高木で、中国が原産地です。日本では西日本の日本海側に多く分布しています。別名をセンダンバノボダイジュと呼びますが、これは葉の形がセンダンに似ていて硬い種を菩提樹と同様に数珠にするからだといいます。

老木になると褐色の樹皮には縦方向の裂け目があります。葉は緑にギザギザのある卵形で、盛夏に黄色い小さな花をたくさん咲かせます。この花がはらはらと散る様子が金色の雨が降るようだとということで英語ではゴールデン・レイン・トゥリーというロマンチックな名で呼ばれます。果実は3枚のハート形の皮に包

まれた袋状で中は3室に分かれており、それぞれ1～2個の黒い種子がはいっています。また、この果実の形が中国燈籠に似ていることから、中国では燈籠樹という名がつけられています。

緻密な材は細工物に、花は黄色の染料として利用されます。さらに、花には目薬の薬効成分があることも知られています。



モクゲンジの実